

先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)

第 七 回 総 会

議 案 書

2016 年 10 月 14 日(金)

於 リコーIT ソリューションズ(株)

目 次

第1号議案 第6期(2015年度)活動報告の件	
・ 活動実績	1-1
第2号議案 第6期(2015年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 会員規約改定の件	
・ 会員規約改定.....	3-1
第4号議案 第7期(2016年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	4-1
・ 第7期(2016年度)の活動計画.....	4-2
第5号議案 第7期(2016年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	5-1
第6号議案 第7期(2016年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	6-1
付属資料	
・ 第7期(2016年度)活動のご紹介	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

	第1期(2010年度):2010年9月8日～2011年8月31日
	第2期(2011年度):2011年9月1日～2012年8月31日
	第3期(2012年度):2012年9月1日～2013年8月31日
	第4期(2013年度):2013年9月1日～2014年8月31日
	第5期(2014年度):2014年9月1日～2015年8月31日
	第6期(2015年度):2015年9月1日～2016年8月31日
⇒	第7期(2016年度):2016年9月1日～2017年8月31日
	第8期(2017年度):2017年9月1日～2018年8月31日
	第9期(2018年度):2018年9月1日～2019年8月31日
	第10期(2019年度):2019年9月1日～2020年8月31日
	第11期(2020年度):2020年9月1日～2021年8月31日

第 1 号議案

第 6 期（2015 年度）活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第6期の活動総括

設立6期目の今期は、2021年夏までの活動延長を見据え、下記5点を重点施策として会と活動の一層の充実に注力した。結果、今後とも改善、強化を図るべき点はあるが、会員各位のご協力、ご支援をもって総じて一定以上の成果が見られた。

- ・従来に増して旬の技術分野への取り組みが活発に行われ、会員内外にAITCの活動が広く知られるところとなった。
 - － AITC オープンラボの機械学習勉強会シリーズ、ブロックチェーンやニューラル・ネットワークの技術セミナーは告知早々の定員(120～130名)超過が定常化し、抽選倍率は2～3倍に
 - － 「TensorFlow 勉強会(会員限定)」の開始発表とともに個人会員の入会希望者が一挙に増加
- ・IoT、機械学習、深層学習を中核にして、活動間の交流・連携が実現
 - － 「ガジェット祭り」で部会、女子会、シニア技術者勉強会が協調し、「空気を読む家」のための各種センサーを紹介

部会や協働プロジェクトにより多くの技術者、特に若手技術者の参加を得て活性化を図れないか等の課題は依然としてあるものの、新しい技術領域へのチャレンジを通して全体として明るい展望が拓けた一年であった。

第6期の重点施策：

- ① 2021年を見据えた、更なる5年間の準備 ～新しい技術領域へのチャレンジ
- ② 部会活動の連携を更に強化～協働プロジェクト「空気を読む家」&合同部会
- ③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの強化～AITCオープンラボ、シニアプログラム、IT女子プログラム
- ④ 情報公開、活動のオープン化の更なる強化
- ⑤ 活動メンバーの増強～新しい技術領域へのチャレンジを通じて

第6期のトピックス：

- ・注目度の高い旬の技術分野を取り上げ、「AITC 技術セミナー」を開催
 - － ブロックチェーン
 - － ニューラル・ネットワーク
- ・「TensorFlow 勉強会(会員限定)」を新設し、6月から活動開始。個人会員が増加
- ・協働プロジェクト第2弾となる「空気を読む家」の活動を展開
 - － ソフトウェアジャパン 2016「IT フォーラム」での発表に向け、部会の役割強化と内容の充実を実現
 - － 新しいセンサーの活用を取り込みながら、シナリオの強化に挑戦
- ・AITC オープンラボ「IoT 勉強会シリーズ」に続き、「機械学習勉強会」シリーズを展開
 - － 旬の技術領域へのチャレンジ、活動のオープン化&スピーディな情報公開で非会員の参加が急増
- ・IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会)とシニアプログラム(通称:シニア技術者勉強会)、着実な活動を展開
 - － 合同開催で技術と人の交流を促進(IoT 試作合同発表会、今どきの Web サイト開発)
 - － 部会との技術&人的交流(@デジタルガジェット祭り)

■会員数

2016年8月31日現在： 総会員 72 会員（法人&個人事業主会員:35、個人会員:32、学会会員:1、特別会員:4）
（参考）

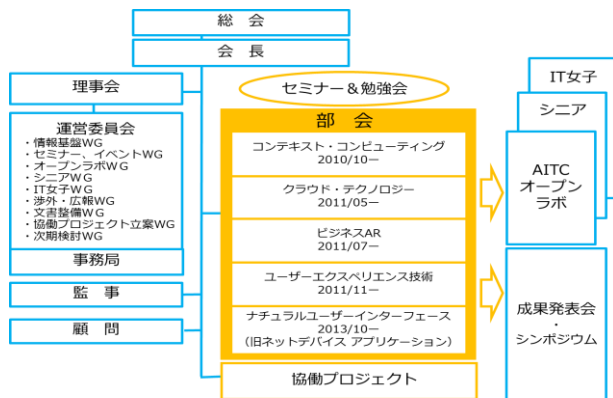
2015年8月31日現在： 総会員 58 会員（法人&個人事業主会員:35、個人会員:17、学会会員:1、特別会員:4）

■第6期の実績・成果

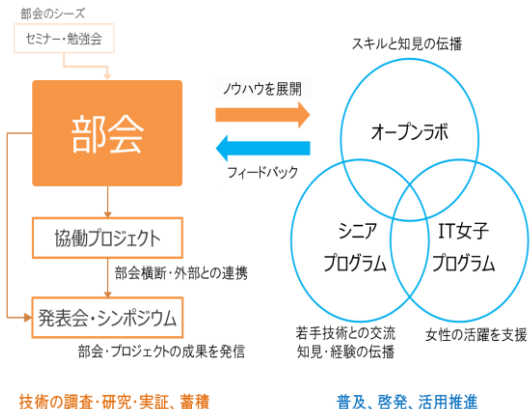
- ・機械学習関連の旬の情報を発信
 - － オープンラボ 演習付き勉強会等：4回(1月、5月、6月、7月)
 - － 「TensorFlow勉強会(会員限定)」を新設:6月から月例開催
 - 会員企業からの参加者が増加
 - 非会員、特に新規、若手の参加者が増加
 - 新会員(個人)が増加
- ・多様な参加者を得て新しいネットワークを構築
 - － オープンラボ
 - － シニア技術者勉強会
 - － AITC女子会
- ・各種情報の発信、イベントの告知・広告にオープンな外部サービスを活用
 - 認知度の向上
 - 新規&リピート参加者の増加
 - AITCニュースレターの定期発行
 - 各種イベントでのAITCパンフレットの配布

■部会、AIRCオープンラボ等の活動実績

(参考図1: 第6期 体制図)



(参考図2: 活動の種類と関係)



1. 部会

1)クラウド・テクノロジー活用部会

- ・書籍「実践 機械学習システム」輪読 (6回)
- ・新しい技術に触れるための部会内ハンズオン (2回)
- ・部会内セミナー (4回: 外部講師2回、部会メンバー講師:2回)
- ・外部施設の見学会 (1回)
- ・気象庁XML用APIの維持・管理(随時)

2)コンテキスト・コンピューティング研究部会

- 理論: 「集合知とは何か」、「言語処理のための機会学習入門」等の書籍を輪読
- ・機械学習関連の研究動向紹介
 - ・Wikipedia「議論学」をベースに合意形成について議論+「議論のレッスン」を輪読
- 応用: 「空気を読む家」に関する気の利いた知的なサービス3種類を提案し、詳細検討
- ・ソーシャルメディアをはじめとする最近のWebテクノロジーによる「タコソボ化の弊害」について検討
 - ・高齢社会における課題と対応の可能性検討
- 実践: ・主に応用の中で議論(試作・試用には至らず)

3)ビジネスAR研究部会

- ・AR産業論に関する議論ととりまとめ
- ・空間OSの開発を継続
- ・「2015-2016ここの年のAR関連アップデート」
- ・外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など

4)ユーザーエクスペリエンス技術部会

- ・マンガ駆動開発 プロセスの設計、実践
- ・協働プロジェクト テーマ検討、UXデザイン
- ・「第三回デジタルガジェット祭り」開催
- ・イベントの準備、参加
- ー情報処理学会 ソフトウェアジャパン2016 ITフォーラムセッション

5)ナチュラユーザーインターフェース活用部会

- ・協働プロジェクトに関するデバイスの検討、試作
- ・デジタルガジェット祭りの開催(2016年6月度オープンラボとして)
- ・イベントの準備、参加
- ー情報処理学会 ソフトウェアジャパン2016 ITフォーラムセッション

2. 協働プロジェクト「空気を読む家」

- ・3回の合同部会および月例の部会リーダー会において、「空気を読む家」の全体コンセプトや方向性について議論
- ・各部会では、プロトタイプ 아이디어出し、シナリオ検討、実装のブレークダウンを実施
- ・2種のプロトタイプ開発を実施: 玄関(2015年9月)、寝室(2016年2月)
- ・4回の外部発表を実施

3. TensorFlow勉強会(会員限定)

- ・2016年5月20日 発表、6月24日 活動開始、月次で勉強会開催、12月10日に第一回報告会開催(予定)
- ・進め方: メンバーが自発的に学びつつ、理解が難しい点や困ったことを互いに持ち寄り、相談し、協力しながら解決を図る。
- ・内容:
 - ーTensorFlowや関連ソリューション(Vision API、SyntaxNet等)を実際に動かし、動作原理や利用ノウハウを実感する。

一個人ではなかなか歯が立たない専門的な解説文献、書籍、論文等を協力して読み進める。

- ・目標:メンバーそれぞれがこの分野の技術リーダーとなり、社内外において後続するエンジニアたちにこの先端ITをさらに広めていけるようになること、そのために必要なノウハウをまとめること。
- ・開催:3回(6月24日、7月26日、8月24日)
- ・メンバー:40名(会員公募36名+発起人グループ4名)

4. 発表会・技術セミナー

- ・第5期活動成果発表会:2015年9月16日(金)
- ・技術セミナー(AITCオープンラボとの共催):
2016年4月20日(水)「使って知ろうブロックチェーン(入門編)~その仕組みと応用~」
2016年5月20日(金)「ニューラル・ネットワークと技術革新の展望」

5. AITCオープンラボ

- ・「IoT勉強会」
- ・「機械学習勉強会」シリーズ x 4回
- ・「デジタルガジェット祭り」
- ・技術セミナー共催 x 2回

6. シニア技術者プログラム(通称:シニア技術者勉強会、2015年3月より活動開始)

- ・月次開催:7回「IoT勉強会シリーズ」、「今どきのWebサイト開発」と「若手との交流会」

7. IT女子プログラム(通称:AITC女子会、2015年5月より活動開始)

- ・月次開催:9回「最新技術を学ぶシリーズ~IoT編」、「データ分析勉強会」と「交流会」

■運営関連の活動実績

1. 年次総会:1回
2. 理事会:開催2回、ML審議4回
3. 運営委員会:開催13回、SNS審議23回
 - 1)情報基盤
 - ・ドメイン&サーバー管理
 - ・Facebookでのイベント広告管理(効果測定)
 - 2)セミナー・イベント
 - ・「第6期(2015年度)活動成果発表会」企画、運営
 - ・「AITC技術セミナー」企画、運営
 - 3)オープンラボ、シニア技術者勉強会、AITC女子会
 - ・企画、運営
 - ・開催回数:24回(機械学習、IoT、今どきのWebサイト開発シリーズ、データ分析勉強会)
 - ー著名人、先達の講演と交流
 - ー外部組織・団体とのコラボレーション
 - 4)渉外・広報
 - ・AITCパンフレット更新
 - ・AITCニューズレター発行:4回
 - 5)文書整備
 - ・実施細則の改訂
 - ・会員規約の改訂検討・提案
 - 6)次期検討委員会
 - ・2016年3月~4月:F2F会議4回 & SNSで意見交換
 - ・第7期以降の会の在り方検討 → 運営委員会へ中間報告
 - ・中間報告をベースに、第7期活動計画の立案、第4号議案を作成

【参考資料:詳細データ(2015年9月1日~2016年8月31日)】

1. 会員数の推移

2010年09月08日(設立総会時)	総会員:21 会員(法人&個人事業主会員:20、特別会員:1)
2011年08月31日	総会員:48 会員(法人&個人事業主会員:38、個人会員:5、学会会員:2、特別会員:3)
2011年10月21日(第二回総会時)	総会員:48 会員(法人&個人事業主会員:37、個人会員:6、学会会員:2、特別会員:3)
2012年08月31日	総会員:53 会員(法人&個人事業主会員:40、個人会員:7、学会会員:3、特別会員:3)
2012年10月12日(第三回総会時)	総会員:50 会員(法人&個人事業主会員:39、個人会員:6、学会会員:2、特別会員:3)
2013年08月31日	総会員:54 会員(法人&個人事業主会員:41、個人会員:7、学会会員:2、特別会員:4)
2013年10月04日(第四回総会時)	総会員:50 会員(法人&個人事業主会員:36、個人会員:8、学会会員:2、特別会員:4)
2014年08月31日	総会員:52 会員(法人&個人事業主会員:34、個人会員:12、学会会員:2、特別会員:4)
2014年10月17日(第五回総会時)	総会員:51 会員(法人&個人事業主会員:34、個人会員:12、学会会員:1、特別会員:4)
2015年08月31日	総会員:58 会員(法人&個人事業主会員:35、個人会員:17、学会会員:2、特別会員:4)

2015 年 10 月 23 日(第六回総会時) 総会員:61 会員(法人&個人事業主会員:35、個人会員:21、学会会員:1、特別会員:4)
 2016 年 08 月 31 日 総会員:72 会員(法人&個人事業主会員:35、個人会員:32、学会会員:1、特別会員:4)
 2016 年 10 月 14 日(第七回総会時) 総会員:72 会員(法人&個人事業主会員:34、個人会員:33、学会会員:1、特別会員:4)

2. 活動の実績

1) 総会

第六回総会開催

開催日 2015 年 10 月 23 日
 開催会場 株式会社日立製作所 Hall A&B(品川 JR イーストビル 20F)
 参加者数 61 名(懇親会 51 名)

2) 理事会: 開催 2 回、ML 審議 2 回

・開催日: 2015 年 10 月 09 日、2015 年 10 月 23 日
 ・ML 審議: 2016 年 01 月 27 日～2016 年 02 月 03 日 実施細則 更新版(第 1.1.3 版)承認の是非について
 2016 年 07 月 26 日～2015 年 07 月 29 日 第 6 期会員アンケートの実施について

3) 運営委員会: 開催 13 回、SNS 審議 26 回

・開催日: 2015 年 09 月 25 日、2015 年 10 月 09 日、2015 年 10 月 23 日、2015 年 11 月 27 日、2015 年 12 月 18 日、
 2016 年 01 月 22 日、2016 年 02 月 26 日、2016 年 03 月 25 日、2016 年 04 月 22 日、2016 年 05 月 27 日、
 2016 年 06 月 24 日、2016 年 07 月 22 日、2016 年 08 月 26 日

・審議(SNS):

2015 年 08 月 30 日～2015 年 09 月 03 日 個人会員入会承認の件
 2015 年 08 月 30 日～2015 年 09 月 03 日 (予算申請) 成果発表会招待講演者への謝礼(交通費)支払いの件
 2015 年 09 月 10 日～2015 年 09 月 15 日 法人会員入会承認の件
 2015 年 09 月 27 日～2015 年 10 月 02 日 個人会員入会承認の件
 2015 年 09 月 30 日～2015 年 10 月 05 日 法人会員退会承認の件
 2015 年 09 月 30 日～2015 年 10 月 06 日 法人会員入会承認の件
 2015 年 10 月 06 日～2015 年 10 月 13 日 (予算申請) AITC 女子会 IoT 勉強会で使用するセンサー購入の件
 2015 年 10 月 10 日～2015 年 10 月 15 日 個人会員承認の件
 2015 年 12 月 12 日～2015 年 12 月 17 日 (予算申請) CC 研部会: 輪読用書籍購入の件
 2016 年 02 月 09 日～2016 年 02 月 15 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 02 月 15 日～2016 年 02 月 22 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 03 月 01 日～2016 年 03 月 07 日 学会会員入会承認の件
 2016 年 05 月 14 日～2016 年 05 月 17 日 (予算申請) 勉強会用 USB 購入の件
 2016 年 05 月 15 日～2016 年 05 月 18 日 (予算申請) ガジェット祭り向け部品購入の件
 2016 年 05 月 27 日～2016 年 05 月 29 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 05 月 31 日～2016 年 06 月 03 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 08 日～2016 年 06 月 10 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 08 日～2016 年 06 月 10 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 08 日～2016 年 06 月 14 日 (予算申請) ガジェット祭り発表者の出張旅費支払いの件
 2016 年 06 月 09 日～2016 年 06 月 13 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 09 日～2016 年 06 月 13 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 10 日～2016 年 06 月 14 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 06 月 15 日～2016 年 06 月 20 日 個人会員入会承認の件
 2016 年 07 月 24 日～2016 年 07 月 29 日 法人会員入会承認の件
 2016 年 08 月 19 日～2016 年 08 月 24 日 (予算申請) 人工知能学会 SIG 発表「空間 OS 漫画」製本費の件
 2016 年 08 月 20 日～2016 年 08 月 25 日 個人会員入会承認の件

4) 活動対象分野と体制

- ① クラウド・テクノロジー : 勉強会活動を経て、2011 年 5 月に部会化
- ② コンテキスト・コンピューティング : 2010 年 10 月より部会活動開始
- ③ AR : ビジネス AR をテーマに 2011 年 7 月より部会活動開始
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術 : 2011 年 12 月より部会活動開始
(注: 第 3 期までネットデバイスアプリケーション部会と連携)

⑤ ナチュラルユーザーインターフェース: 2013 年 10 月より UX 技術と連携し活動開始

+

新しい技術領域への取り組み

- ① IoT、機械学習、深層学習: 協働プロジェクト、クラウド・テクノロジー活用部会、TensorFlow 勉強会
AITC オープンラボ、シニア技術者勉強会、AITC 女子会
- ② ニューラル・ネットワーク、ブロックチェーン: AITC 技術セミナー

- 5)主催・共催イベント(総会、成果発表会、技術セミナー) 計5回 参加者総数 312 名(会員:183 名、非会員:164 名)
 2015/09/04(金) MashupAwards(MA)&AITC オープンラボ共催(会員:6 名、非会員:27 名)
 「DeepLearning ハンズオン勉強会～Caffe で画像分類を試してみようの会～」
 2015/09/16(水) 第 5 回活動成果発表会 55 名(会員 42 名、非会員 13 名)
 「～IoT や DeepLearning など先端 IT を満載した新協働プロジェクト『空気を読む家』本格始動!～」
 招待講演「IoT/M2M 技術標準化や業界アライアンス動向」
 新世代 M2M コンソーシアム 理事 木下 泰三様
 (株式会社日立製作所 情報・通信システム社
 IT プラットフォーム事業本部 IoT ビジネス推進統括本部 事業主管)
 2015/10/23(金)第六回総会(会員 50 名、非会員 11 名)
 記念講演「IBM Watson とコグニティブ・コンピューティングの展望」
 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 技術理事 武田 浩一様
 2016/04/20(水)AITC 技術セミナー&オープンラボ(会員 43 名、非会員 43 名)
 「使って知ろうブロックチェーン(入門編)～その仕組みと応用～」
 インフォテリア株式会社 代表取締役社長 平野 洋一郎様
 シニアプロダクトマネージャー 森 一弥様
 2016/05/20(金)AITC 技術セミナー&オープンラボ(会員 42 名、非会員 35 名)
 「ニューラル・ネットワークと技術革新の展望」
 早稲田大学情報生産システム研究センター 招聘研究員 丸山 不二夫様
 AITC 顧問

6)部会および部会間連携活動(協働プロジェクト)

- ・部会開催(月次)+部会 SNS(随時)
- ・部会リーダー会(月次)
- ・協働プロジェクト(月次+随時)+SNS(随時)
- ・合同部会(随時)&忘年会(年次)

①クラウド・テクノロジー活用部会(2011 年 5 月発足～2013 年 10 月部会名変更)

開催実績: 月例部会: 計 11 回

2015/10/27(火)、11/30(月)、12/18(金)、2016/01/20(水)、02/18(木)、03/14(月)、04/14(木)、05/17(火)、
 06/13(月)、07/13(水)、08/16(火)

参加者: 延べ 88 人

活動内容: ・書籍「実践 機械学習システム」輪読(6 回)

- ・新しい技術に触れるための部会内ハンズオン(2 回)

ー Docker 最新版体験会

ー TensorFlow 体験会

- ・部会内セミナー(4 回)

ー IoT とセキュリティ(講師:部会メンバー)

ー Amazon の IoT サービスの事例紹介(Amazon 亀田様)

ー PKI Day2016 の紹介(講師:部会メンバー)

ー マイナンバー制度の法人番号の民間活用(経済産業省 CIO 補佐官 満塩様)

- ・外部施設の見学会(1 回)

ー 気象庁 気象衛星センター

- ・気象庁 XML 用 API の維持・管理(随時)

②コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010 年 10 月発足)

月例部会: 計 12 回

2015/09/18(金)、10/16(金)、11/20(金)、12/18(金)、2016/01/15(金)、02/19(金)、03/18(金)、
 04/15(金)、05/20(金)、06/17(金)、07/15(金)、08/19(金)

参加者: 延べ 72 人

活動実績: 理論、実践、応用の三つに分けて活動した

- ・理論: 書籍「集合知とは何か」の輪読
 書籍「言語処理のための機械学習入門」の輪読
 機械学習関連の研究動向紹介
 「異種混合機械学習」
 「遺伝的ファジィ決定木」

Wikipedia「議論学」をもとに、合意形成について議論

書籍「議論の技法」の紹介

書籍「議論のレッスン」の輪読

- ・応用: 「空気を読む家」に関する気の利いた知的なサービスに関して検討

「重要な早朝会議に遅れない」システムについて

「ルーチンワークと逸脱の検出による「忘れ」の指摘」システムについて

「快適な睡眠をえる」システムについて

- 「ソーシャルメディアを初めとする最近の Web テクノロジーによる「タコツボ(島宇宙)化」の弊害」について
その他、高齢社会における課題と対応の可能性
- ・実践: 主に応用の中で議論
※ 試作・試用にはいわず

③ビジネス AR 研究部会(2011 年 7 月発足)

月例部会: 13 回

2015/09/09(水)、11/06(金)、12/11(金)、12/18(金)、2016/01/08(金)、02/05(金)、03/04(金)、04/01(金)、
05/13(金)、06/01(水)、06/23(木)、07/08(金)、08/03(水)

参加者: 延べ 63 人

活動実績: ・AR 産業論に関する議論と取りまとめ「AR 産業論 2015」として、成果発表会で発表

- ・空間 OS の開発を継続
- ・2015-2016 ここ 1 年の AR 関連情報のアップデート→50 の事例を収集
- ・橋田顧問との意見交換(2015/10/15)
- ・成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など
 - ーリコーIT ソリューションズ第 80 回 RITS 交流会(2015/11/30)
 - 「AR が指し示す IT サービス産業の未来と課題」を講演(大林リーダー)
 - ーソフトウェアジャパン 2016(2016/02/04)
 - 「空間 OS」の講演とデモを実施(中川サブリーダー)
 - ーLOD チャレンジ 2015 にエントリ
 - 「サイバー・フィジカル LOD(Cyber-Physical LOD: CPLD)の提案」(<http://idea.linkdata.org/idea/idea1s1569i>)

④ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011 年 12 月発足)ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2013 年 10 月発足)

月例部会 12 回(ナチュラルユーザーインターフェース活用部会と合同開催)

2015/9/24(木)、10/22(木)、11/26(木)、12/18(金)、2016/01/21(木)、02/25(木)、03/24(木)、04/21(木)、05/20(木)
06/23(木)、07/21(木)、8/25(木)

参加者: 延べ 47 人

活動内容: ・マンガ駆動開発 プロセスの設計、実践

- ・協働プロジェクト テーマ検討、UX デザイン
- ・イベントの準備、参加: 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2016 IT フォーラムセッションでの発表

⑤ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2013 年 10 月発足)

月例部会 12 回(ユーザーエクスペリエンス技術部会と合同開催)

2015/9/24(木)、10/22(木)、11/26(木)、12/18(金)、2016/01/21(木)、02/25(木)、03/24(木)、04/21(木)、05/20(木)
06/23(木)、07/21(木)、8/25(木)

参加者: 延べ 47 人

活動内容: ・協働プロジェクトに関するデバイスの検討、試作

- ・デジタルガジェット祭りの開催(2016 年 6 月度オープンラボとして)
- ・イベントの準備、参加: 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2016 IT フォーラムセッションでの発表

⑥協働プロジェクト<空気を読む家> (2014 年 12 月 検討開始)

合同部会: 3 回の合同部会を開催し、集中検討を実施

2015 年 12 月 18 日 次期開発項目検討

2016 年 6 月 14 日 空間 OS 検討

2016 年 6 月 24 日 シナリオ検討

活動内容&活動の成果:

- ・3 回の合同部会、および部会リーダー会において、「空気を読む家」全体のコンセプトや方向性について議論
- ・各部会では、プロトタイプのアイディア出しやシナリオ検討、実装のブレークダウンを実施
- ・プロトタイプとして、玄関(2015 年 9 月)、寝室(2016 年 2 月)の開発を行った。
- ・4 回の外部発表を実施
 - 2015 年 9 月 15 日 協働プロジェクト「空気を読む家」本格始動! をプレスリリース
 - 2015 年 9 月 16 日 AITC 成果発表会において詳細報告とデモを実施
 - 2015 年 10 月 8 日 新世代 M2M コンソーシアム 情報交換 WG
 - 2016 年 2 月 4 日 情報処理学会ソフトウェアジャパン 2016 IT フォーラムセッション

7)勉強会(会員限定)

①TensorFlow 勉強会(2016 年 6 月活動開始)

月例勉強会: 3 回(2016/06/27、07/26、08/24)

活動実績: ・環境構築(Mac/Windows + Docker) ~TensorFlowを動かしてみる

- ・公式チュートリアル完全理解
- ・TensorFlow Playgroundで渦巻きを学習
- ・AWSやGoogleでTensorFlowの動かし方
- ・公開されてる学習済ネットワークの活用方法

- ・参考資料の収集
- ・「DeepLearning用語集」の作成

8) オープンな活動

① AITC オープンラボ (技術セミナーとの共催を除く)

開催回数: 7回 (2015年9月～2016年8月)

参加者: 延べ483名(会員259名、非会員224名)

活動実績: 機械学習勉強会シリーズの開催(座学、ハンズオン)

外部の申し込みサイトを活用し非会員へのアプローチを強化

開催日 & テーマ:

- ・2015/09/04 DeepLearning ハンズオン勉強会「Caffe で画像分類を試してみようの会～」(MA 共催)
- ・2015/09/12 第7回 IoT 勉強会「IoT 自由研究! モクモク会」
- ・2016/01/25 第1回機械学習勉強会
「いまさら聞けない機械学習の基礎、活用事例、自宅でもできる機械学習」
- ・2016/05/30 第2回機械学習勉強会「実践機械学習のハンズオン: 感情分類を Try してみよう!」
- ・2016/06/23 「第三回 デジタルガジェット祭り!」
- ・2016/06/27 第3回機械学習勉強会「色々なニューラル・ネットワークのフレームワークを動かしてみよう!」
- ・2016/07/25 第4回 機械学習勉強会「Cloud Machine Learning Platform: AWS, Azure, GCP 一挙紹介!」

② シニア技術者プログラム (通称: シニア技術者勉強会)

開催回数: 8回 (2015年9月～2016年8月)

参加者: 延べ112名(会員85名、非会員27名)

活動実績: IoT 勉強会シリーズの開催(勉強会、ハンズオン)

いまさら聞けない Web サイト開発手法シリーズの開催

交流会

開催日 & テーマ:

- ・2015/09/05 「第5回 IoT 勉強会 & 交流会～IoT アイデアソン～」
- ・2015/10/03 「第6回 IoT 勉強会 & 交流会～アイデア実現のための技術を学ぶ～」
- ・2015/11/07 「第7回 IoT 勉強会 & 交流会～アイデア実現を目指し試作に Try!」
- ・2015/12/05 「第8回 IoT 勉強会 & 交流会～試作発表の準備～」
- ・2016/01/30 「IoT 試作発表会」(AITC 女子会との合同発表)
- ・2016/05/21 「今さら聞けない Web サイト開発 第1回～今さら聞けないいまどきの Web、JS 入門」
(女子会と合同開催)
- ・2016/07/16 「今さら聞けない Web サイト開発 第2回」
- ・2016/08/27 「今さら聞けない Web サイト開発 第1回～今さら聞けないいまどきの Web、JS 入門」(再演)

③ IT 女子プログラム (通称: AITC 女子会)

開催回数: 10回 (2015年9月～2016年8月)

参加者: 延べ139名(会員107名、非会員32名)

活動実績: IoT 勉強会シリーズ開催(座学、ハンズオン、アイデアソン、試作、試作発表)

データ分析勉強会のシリーズ開催(書籍輪読、座学、ハンズオン)

交流会

開催日 & テーマ:

- ・2015/09/26 「第3回勉強会 最新技術を学ぶ～IoT 編②」
- ・2015/10/17 「第4回勉強会 最新技術を学ぶ～IoT 試作編」
- ・2015/11/21 「第5回勉強会 最新技術を学ぶ～IoT 試作編②」
- ・2015/12/05 「第6回勉強会 最新技術を学ぶ～IoT 試作 & 発表準備編」
- ・2016/01/30 「IoT試作発表会」(シニア技術者勉強会との合同発表)
- ・2016/04/16 「データ分析勉強会第1回～データ分析を知る: 統計基礎+R入門」
- ・2016/05/21 「データ分析勉強会第2回～今さら聞けない今どきの Web、JS 入門」
(シニア技術者勉強会と合同開催)
- ・2016/06/18 「データ分析勉強会第3回～Web で可視化+可視化ライブラリーをさわってみよう[1]D3.js」
- ・2016/07/16 「データ分析勉強会第4回～Web で可視化+可視化ライブラリーをさわってみよう[2]NVD3.js」
- ・2016/08/27 「データ分析勉強会第5回～IoTのデータを分析・可視化するハンズオン、Q&A会」

9) 活動成果物

理事会認定成果物: なし

部会等の活動成果: 発表資料(10)公開資料に記載された全資料)

10) 公開資料

【活動成果発表会】

招待講演資料(会員限定): <http://aitc.jp/events/20150916-Seika/IoTM2M> 技術標準化や業界アライアンス動向.pdf

活動成果発表資料(一般公開): <http://aitc.jp/events/20150916-Seika/活動成果発表会>.pdf

【第六回総会】

2015/10/23(金) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第六回総会

第六回総会議案書: http://aitc.jp/events/20151023-Soukai/20151023_Statement.pdf

AITC2014 年度会員アンケート集計結果(会員限定): http://aitc.jp/consortium/data/questionnaire_2014.pdf

【AITC オープンラボ】

2016/01/25(月) 第 1 回機械学習勉強会 「いまさら聞けない機械学習の基礎、活用事例、自宅でもできる機械学習」

いまさら聞けない機械学習のキホン: <http://www.slideshare.net/dsuket/ss-57488780>

Watson 活用事例～Watson ハッカソンの例を通じて～: <http://www.slideshare.net/Hironsan/watsonwatson-57489478>

Deep Learning を使って訪問者判定してみた: http://www.slideshare.net/aitc_jp/20161-aitc-1-deep-learning

AITC オープンラボ 機械学習の為の事前準備: <http://www.slideshare.net/kazunaritakaki/aitc-57510657>

2016/04/20(水) AITC 技術セミナー&オープンラボ 「使って知ろうブロックチェーン(入門編)～その仕組みと応用～」

https://www.infoteria.com/jp/contact/event/r_aitc_160420/

2016/05/20(金) AITC 技術セミナー&オープンラボ 「ニューラル・ネットワークと技術革新の展望」

<https://drive.google.com/file/d/0B04ol8GVySUuZHd2T1NDRHVXbjg/view?pref=2&pli=1>

2016/05/30(月) 第 2 回機械学習勉強会 「実践機械学習のハンズオン: 感情分類を Try してみよう！」

<https://onedrive.live.com/?authkey=%21AH55cuwDKqptsHs&id=195C629BEFEDC430%21197891&cid=195C629BEFEDC430>

2016/06/23(木) ガジェット祭り 第 3 回

PaperMotitonSculpture: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66635453

匂いセンサー: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623

加速度センサー: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66404912

赤外線距離センサー、感圧センサー: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66403766

CdS セル: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-cds

音センサー: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66492745

ネットワークカメラ: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66418917

デジタルカラーセンサー、土壌湿度センサー: <http://www.slideshare.net/kzokm/ss-66447443>

ひずみセンサー: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66418958

サーモグラフィ: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016623-66418980

心拍センサー、温度センサー、地磁気センサー: <http://www.slideshare.net/natsuwatanabe1/aitc-lt>

飛び入り: <http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/lt-63375835>

VR Game in Future: —

2016/06/27(月) 第 3 回 機械学習勉強会色々な「ニューラル・ネットワークのフレームワークを動かしてみよう！」

TensorFlow: <http://www.slideshare.net/yuk1yoshida/mactensorflow-on-docker-63529533>

CNTK: 非公開

Chainer: 未公開

Keras: <http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/3nnkeras>

2016/07/25(月) 第 4 回 機械学習勉強会～Cloud Machine Learning Platform: AWS, Azure, GCP 一挙紹介！

AmazonMachineLearning で作るリアルタイム予測 API:

<https://speakerdeck.com/tominaga443/amazon-machine-learning-concepts>

より使いやすい機械学習へ～Google の機械学習テクノロジー:

<https://speakerdeck.com/kazunori279/googlegamezasu-shui-mogashi-eruji-jie-xue-xi>

Microsoft Azure Machine Learning

<https://drive.google.com/file/d/0B0MnI8NbnX9ceUNhY0RDbWVlck0/view>

【シニア技術者勉強会】

2016/01/30(土) IoT試作合同発表会

メガネを見つける: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016130-58807712

これで安心！おやじ臭計れます: <https://drive.google.com/file/d/0Bwv4fHPOCkYEWDRyNIVadmV6VXc/view?pref=2&pli=1>

2016/05/21(土) 今さら聞けない Web サイト開発 第1回: <http://www.slideshare.net/ssuser5bbd5a/aitc-web-vol1>

2016/07/16(土) 今さら聞けない Web サイト開発 第2回: <http://www.slideshare.net/ssuser5bbd5a/aitc-web-vol2>

2016/08/27(土) 今さら聞けない Web サイト開発 第3回(第1回の再演)

【AITC 女子会】

2016/01/30(土) IoT試作合同発表会

合コン気持ちログ: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016130-58807800

冷蔵庫どこ空チェック: http://www.slideshare.net/aitc_jp/2016130-58807837

2016/04/16(土) データ分析勉強会第1回

統計学の良著: <http://www.slideshare.net/natsumiirimura/ss-61013742>

R 入門編: <http://www.slideshare.net/natsuwatanabe1/r-61005514>

R インストール編: <http://www.slideshare.net/natsuwatanabe1/r-61005486>

2016/05/21(土) データ分析勉強会第2回(シニア技術者勉強会と合同開催)

2016/06/18(土) データ分析勉強会第3回「D3.js を使ったデータビジュアライズ」

http://aramoto.sakura.ne.jp/20160618_D3js/20160618_IT%8f%97%8eq%89%ef_D3js.pdf

- 2016/07/16(土) データ分析勉強会第4回「可視化ライブラリーを触ってみよう NVD3.js」
http://aramoto.sakura.ne.jp/20160716_nvd3/20160716_IT%8F%97%8Eq%89%ef_nvd3.pdf
- 2016/08/27(土) データ分析勉強会第5回「IoTのデータを分析・可視化するハンズオン、Q&A会」
http://aramoto.sakura.ne.jp/20160827_IoT/20160827_IT%8F%97%8Eq%89%EF_IoT%82%DC%82%C6%82%DF.pdf

・情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2016 協働プロジェクト『空気を読む家』

- 活動概要: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624-aitc
空間 OS の設計コンセプト: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624-osit
マンガ駆動開発: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624
家電制御技術と情報連携: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624-os
ビッグデータ技術基盤: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624-os-57987229
『空気を読む』ためのコンテキスト・コンピューティング: http://www.slideshare.net/aitc_jp/201624-os-57987242
動画: https://www.youtube.com/watch?v=a4_Igk7ZQGs

9) 外部組織・団体との協力関係(順不同)

- ・アライアンス・パートナー
 - 九州 IT&ITS 利活用推進協議会(QPITS)
- ・部会活動、協働プロジェクトへの協力・支援
 - 産業技術総合研究所
 - 気象庁
 - 消防庁 消防大学校 消防研究センター
 - 防災科学技術研究所
 - 東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター
 - 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)
- ・BizAR 研究部会のアライアンス・パートナー
 - デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室
- ・マーケティング活動支援
 - 情報処理学会
- ・メディア・パートナー
 - ITmedia エンタープライズ

10) 外部主催イベントに対する協賛、協力、出展: 1回

- ・2016/02/04(木) 情報処理学会「ソフトウェアジャパン 2016」協賛。主催:一般社団法人情報処理学会

11) 学会、外部セミナー等での講演: 1回

- ・「ソフトウェアジャパン 2015」主催:情報処理学会、開催日:2016年2月4日、会場:
 - 講演: 協働プロジェクト「空気を読む家」
 - 司会: 松山憲和(PFU テクノコンサル)
 - 講師: 中川雅三(日本総合システム)、原孝治(ドリーム IT21)、岡村和英(テクリエ)、荒本道隆(アドソル日進)、道村唯夫(富士ゼロックス)、松山憲和(PFU テクノコンサル)

12) AITC ニュースレター: 4回

- ・2015/10/01 第7号「協働プロジェクト『空気を読む家』本格始動！」
- ・2016/01/04 第8号「空間 OS inside 空気を読む家」
- ・2016/04/01 第9号「IT フォーラムセッションで空気を読む家を発表」
- ・2016/07/01 第10号「使って知ろうブロックチェーン」セミナー開催。今、ブロックチェーンが熱い！」
& 「ニューラル・ネットワーク セミナー 大盛況！」

13) 文書整備

- 会員規約の改定作業(第七回総会議案書に草上分)
- 実施細則の整備作業

14) アンケート実施、公開

- ・「第6期(2015年度)会員アンケート」
 - 実施期間:2016年08月01日～2015年08月31日
 - 公開日程:2016年10月14日(本会サイトに掲載、会員限定公開)
 - (注:第6期(2015年度)とは、2015年9月1日～2016年8月31日を指す)

第 2 号議案

第 6 期（2015 年度）収支報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 6 期(2015 年度)収支計算書

2015 年 9 月 1 日 から 2016 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 6 期 予算	第 6 期 実績	差額	備考:予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	6,752,213	6,752,213	0	
年会費	3,713,000	3,653,000	60,000	法人&個人事業主(10 万円) 35 会員 vs 34 会員 個人会員(1 万円) 21 会員 vs 20 会員 (後半期 5 千円) 0 会員 vs 10 会員 学術会員(3 千円) 1 会員
参加費	300,000	447,000	△147,000	懇親会参加費:(3 千円) 0 名 vs 1 名 (2 千円) 100 名 vs 175 名 (1 千円) 100 名 vs 94 名
雑収入	1,500	780	720	利息
収入の部合計	10,766,713	10,852,993	△86,280	
2. 支出の部				備考:用途別費用
総会開催費	300,000	188,665	111,335	総会懇親会費用:163,900 円 (但し、補てん分は 109,900 円) 総会表彰賞状の作成費用+広告費:24,765 円
部会活動支援金	1,100,000	486,022	613,978	実証&デモ用機器購入費:110,431 円 輪読用書籍購入費:33,264 円 貸し会議室費用:28,053 円、講師謝金:10,000 円 成果発表会懇親会費:153,360 円 部会用レンタル・サーバー費:129,230 円 パンフレット更新費:18,100 円、広告費:3,584 円
協働プロジェクト支援金	500,000	148,513	351,487	デモ機器購入費:58,993 円 Backlog 年間使用料:25,920 円 忘年会費:59,500 円(但し、補てん分は 27,500 円) 広告費:4,100 円
イベント参加費	100,000	54,000	46,000	ソフトウェアアジア 2015 サポーター費
オープンラボ開催費	300,000	240,876	59,124	懇親会費:192,796 円※(但し、補てん分 19,796 円) ※技術セミナーとの共催分:115,359 円 講師謝金:15,000 円、出張旅費 :28,500 円 広告費 :4,000 円、その他 :580 円
シニア技術者勉強会 & 女子会 活動支援金(特別支援金)	400,000	177,648	222,352	シニア勉強会 & 女子会交流会開催費:114,782 円 (但し、補てん分は 6,782 円) デバイス購入費:58,866 円、広告費:4,000 円
事務局経費	2,592,000	2,592,000	0	情報配信 & サイト管理費:1,296,000 円 その他の作業支援費 :1,296,000 円
コンソーシアムサイト 運用管理費 & リニューアル費	200,000	0	200,000	
通信費	5,000	7,786	△2,786	配送費:4,526 円、郵送費:1,210 円 切手代:2,050 円
事務消耗品費	5,000	11,148	△6,148	領収証書+会計帳簿:1,651 円 その他事務用品:9,497 円
雑費	30,000	15,966	14,034	名刺作成費:13,650 円 振り込み手数料:2,316 円
予備費	5,234,713	30,994	5,203,719	TensorFlow 勉強会懇親会費:30,994 円
支出の部合計	10,766,713	3,953,618	6,813,095	
次期繰越収支差額		6,899,375		

貸借対照表

2016 年 8 月 31 日現在

(単位: 円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,059,375		
流動資産合計		7,059,375	
資産合計			7,059,375
【負債の部】			
前受金	160,000		
流動負債合計		160,000	
負債合計			160,000
【正味財産の部】			
正味財産			6,899,375
(うち当期正味財産増加額)			147,162
負債及び正味財産合計			7,059,375

財産目録

2016 年 8 月 31 日現在

(単位: 円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,059,375		
普通預金	7,059,375		
横浜銀行	7,059,375		
流動資産合計		7,059,375	
資産合計			7,059,375
【負債の部】			
流動負債			
前受金	160,000		
流動負債合計		160,000	
負債合計			160,000
正味財産			6,899,375

第 6 期(2015 年度) 監査報告書

監 査 報 告 書

2016 年 9 月 27 日

先端 IT 活用推進コンソーシアム

会長 鶴保 征城 殿

監事

水 谷 孝 

私 監事は、先端 IT 活用推進コンソーシアム会員規約第 34 条に基き、本会の会期と定めた
2015 年 9 月 1 日から 2016 年 8 月 31 日における会計および業務について監査を行い、
次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、
財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる
監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および
規約に従って、先端 IT 活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示して
いると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に
違反する事実はないことを認める。

以上

第 3 号 議 案

会 員 規 約 改 定 の 件

先 端 IT 活 用 推 進 コ ン ソ ー シ ア ム

経緯:

運営委員会内の文書整備委員会(通称:文書整備 WG)は、会員規約(注 1)と実施細則を分かり易くし、また設立後 6 年を経て変化、発展した会と活動の形態に即した改善を行うことを目的として、それぞれの改定案をまとめる活動を実施している。

本提案では、会員規約への改定案を、理事会承認のもと総会議案としてここにご提案する。

(注 1:本議案では、会員規約の末尾に記載されている会期規定、会費規定、および、活動支援金規定を会員規約に含むものとする。)

改定案1:(目的)第3条の条文修正

改定の事由:

1. 先端ITを取り巻く環境が 6 年前の設立当時から変化した。陳腐化した冒頭の一文を削除し、現環境に即した表現とする。
2. 先端 IT に明るい技術者の育成を追加し、本会の目的をより明確に、より実態に即した表現とする。

現行:

(目的)

第3条 昨今、IT の変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。本会は、日常的な努力では習得の難しい先端 IT に関し、技術者が研鑽し互いに切磋琢磨する場、利活用を進めるための情報と知見を共有する場、次の先端 IT を発掘し紹介し次世代の IT 活用を提言する場となることを活動目的とし、もって、日本の IT と IT が支える日本の産業、社会の発展に資することを目指す非営利団体である。

改定案:

(目的)

第3条 本会は、日常的な努力では習得の難しい先端 IT に関し、技術者が研鑽し互いに切磋琢磨する場、利活用を進めるための情報と知見を共有する場、次の先端 IT を発掘し紹介し次世代の IT 活用を提言する場となることを活動目的とし、もって、非営利団体として先端 IT に明るい技術者の育成と IT 業界および IT が支える産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す。

改定案2:(勉強会、部会、プロジェクト。以下、部会等と記す)第40～42条へ終了手続きの追加

改定の事由:

部会等の活動活性化、新陳代謝の促進のために、それらの終了について明示的に規定する。

現状の会員規約では、部会等の設立についての規定はあるが、終了については規定がない。バランスをとって終了についても会員規約で規定することにより、実施細則でそれらの具体化を可能にする。このために、40 条から 42 条のそれぞれに終了についての項(第5項)を追加する。

現行:

(勉強会)

第40条

3. 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。

(部会)

第41条

3. 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

(プロジェクト)

第42条

3. プロジェクトは、会員がプロジェクト新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

改定案:

(勉強会)

第40条

- (追加) 5. 勉強会は、活動の目的を達した時点で、理事会への報告をもって活動を終了することができる。

(部会)

第41条

- (追加) 5. 部会は、活動の目的を達した時点で、理事会への報告をもって活動を終了することができる。

(プロジェクト)

第42条

- (追加) 5. プロジェクトは、活動の目的を達した時点で、理事会への報告をもって活動を終了することができる。

改定案3:(特別会員)第43条の条文追加ならびに修正

改定の事由:

特別会員の本会活動への参加資格を、実態に即し個人会員、学会会員と同等とする。

現行:

- 6 特別会員は理事会の要請のある場合に限り、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

改定案:

(追加) 6 特別会員は本会の企画・主催するセミナー等に参加することができる。

(修正) 7 特別会員は予め理事会の了解を得て、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

改定4: **(催事)**に関する条文を第54条として追加

改定の事由:

現行の会員規約には、セミナー等の開催は自明の活動としてこれを規定する条文はない。実施細則に規定した内容に沿って、企画、運営を行っているが、会員規約でもセミナー等を明文化することが望ましい。

また、設立当時には想定されておらず、試行的に開始したオープンな活動(オープンラボ等)は、本会内外に対して広くスキル・ノウハウや知見を発信する場として、また新しい技術領域にチャレンジする場として、あるいはシニアやIT女子も参加し易い場として評価が高く、確実に実績を重ねてきた。しかし、これらに関する条文も会員規約に明示的にはまだ規定されていない。

上記を踏まえ、会と活動の現状に即した会員規約とするため、AITC が主催するセミナー等(成果発表会、オープンラボ等を含む)をまとめて「催事」とし、それらを規定する第54条を追加する。

条文案:

(催事)

第54条 本会は、第40条から第42条に定める活動形態に加え、会員および会の外に対しても、広く先端 IT の普及、啓発、活用推進をはかり、交流の範囲を広げるため、セミナー等を企画・主催することができる。以下、本会が企画・主催するセミナー等を催事と呼ぶ。

2 催事は、勉強会や部会の活動に繋がる最新の技術や動向の情報を提供する場、ならびに、本会活動の成果等を発信する場として実施する。

3 催事は、会員が提案し、理事会への報告をもって開催することができる。

4 催事への非会員の参加可否と条件は、催事の趣旨に合わせ理事会が定める。

上記をもって、会員規約第35条(規約の変更)に従い、会員規約の改定をご提案する。

(注: 会員規約第35条「…出席会員数の3分の2以上の議決を得た場合、変更できる。」)

この改定をご承認いただいた場合には、会と活動の更なる発展に寄与すべく、今後とも会員規約の見直しを進め、現状に即し、更に判り易く、理解し易く改善していくための検討を行う。

第 4 号議案

第 7 期（2016 年度）活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

更なる飛躍を目指して

第六回総会で決議された会期延長を受け、運営委員会下に次期検討委員会を設け、2021年8月末日までの今後5年間における本会の活動や運営方針を検討した。設立以来の6年間で、本会は環境の変化に適応しながら着実に進化、発展してきたと考えられるが、同時に課題も散見される。この認識に立って今後のあるべき姿を描きながら、今後5年間の本会の活動や運営の方針について再定義を行うとともに第七期の活動計画の確実な遂行をもって活動の更なる充実を目指す。

【主な変更点】

1. 『1)活動理念』の文章化
従来、活動の理念は設立趣旨の文中に記載されているとしてきたが、本会活動の特質である「先端ITに何度もトライできる場」であり「先端ITにワクワクできる場」の意を盛り込んで簡潔な文章化を行い、改めて本会の理念を明示
2. 『2)活動の目的』に場の定義を追加
設立当初より、技術者に先端ITに関する「場」を提供することを活動の目的と定義してきたが、新たに、「失敗しても何度もトライできる場、ワクワクできる場」を加え、本会の特質と意義を明示。
3. 『4)活動の体制』の図示
「個人が主役」となった時代の変化を受け、改めて、「会員企業に対する技術メリットを活動の中心にするのか」、それとも「担い手としての個人にフォーカスした活動にするのか」について検討した。結果、「正会員たる会員企業を主体とする活動」と「非会員（個人）も参加できるオープンな活動」の双方で成り立つことを AITC の特徴とし、双方の活動がノウハウを交換するなど共生を図ることで、最終的に「個人の力を企業に注入することで産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す」旨を明確化

1. 本会の活動・運営方針

1) 活動理念

本会は、先端情報技術（以下、先端ITと表す）にトライできる場、ワクワクできる場を提供し、先端ITに明るい技術者の育成と先端ITの活用を推進することで、IT業界およびITが支える産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す。

2) 活動の目的

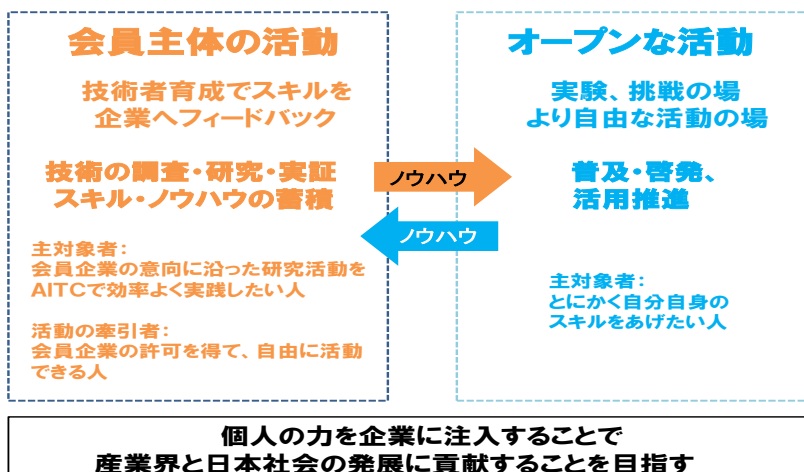
本会は、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすため、次のような活動の「場」を提供することを活動の目的とする。

- ・先端ITに関する情報をいち早く技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって、先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・失敗しても何度もトライでき、先端ITにワクワクできる場
- ・先端ITの可能性を検証し、活用を推進する場
- ・得られた先端ITの知見を発信していく場
- ・先端ITに関する企業間交流の場

3) 活動方針

- ・一社ではできない活動、競合関係を越えた活動
- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・知見の発信・活用推進による社会貢献

4) 活動の体制



5)活動の成果

- ① 部会や協働プロジェクトの成果として、以下を想定する。
 下記は、理事会承認をもって認定成果物として公開される。
- ・試用・検討報告書
 - ・実証実験報告書
 - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
 - ・プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など
- ② 下記は活動の成果として、都度、速やかに公開する。
- ・成果発表会の発表資料
 - ・AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ、AITC 女子会、シニア技術者勉強会の講演/発表資料

6)会員制度

会員種別	対象者	議決権	活動参加 注1	運営参加 注2	年会費
正会員	法人 個人事業主	○ ○	○ ○	○ ○	10万円 10万円
準会員	個人会員 学会会員	X X	(要 理事会承認) ○ ○	X X	1万円 3千円
特別会員	選任	X	(要 理事会承認) ○	○ 注3	無料

注1：活動参加とは、会員主体の活動（部会や協働プロジェクトなど）＋オープンな活動の全てに参加できることを指す

注2：運営参加とは、理事、運営委員として本会の運営に携わることを指す

注3：特別会員は理事会の要請を受け、運営に参加することができる

2. 第7期(2016年度)の活動計画

1) 第7期の重点施策

前述の通り、今回の活動や運営方針の見直しを通して、以下のような課題も浮かび上がった。

- ・会員企業への活動のフィードバック
 会員企業の場合、活動への参加者から企業へリターンがあるべきだが、実態としては個人に留まりがちである
- ・部会活動の意義と活性化
 部会活動は、会員企業にとっては、継続的にテーマに沿った技術を広く、深く学習できる場として価値がある一方、活動の長期化に伴い、メンバーが固定化し、活動が停滞している状況も散見される

今期はこのような課題も強く意識し、以下を重点施策とする。

下記以外にも有効な施策があれば、適宜、実施するものとする。

① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化

これから2020年に向けて、IoT/AIだけにとどまらず新しい技術が生まれ、実用化されるだろう。

また、これからの5年間は本会にとって会期末に向けて活動の集大成を行う重要な時期となる。

このような状況を踏まえ、今期からの5年間は2020年に向けてドラスティックに発展していくであろう技術に取り組むと共に、その中で何が使えるのか、何が残るのか、東京オリンピック後を見据えた新しい技術領域を学び、調査・研究・検証するための活動を強化する。このため、現在の部会が対象としている技術領域に限定せず、AITCでまだ取り組んでいない新しい技術領域にもチャレンジする。

- ・企画者と知見を持つ人の連携を密に行い、知見を有する外部講師によるセミナーを開催、知見者との交流を図る
- ・勉強会を立ち上げ、参加者が共に学び、助け合いながら疑問を解くことで、リーダーとなる技術者の育成に励む
- ・協働プロジェクトに適用し、検証するなど、試験的な取り組みを行い、得られたスキルと知見を会員内外に発信する

今期は、特に、企業が今後の技術として注目しているテーマに取り組むことで、会員企業からの参加者を増やし、その分野のスキル・ノウハウを有する技術者、とりわけ後続の技術者達に技術を広めていけるリーダー的技術者を育成し、会員企業へのスキルとノウハウのフィードバックを目指す。

上記の取り組みを通して、会期末(2021年8月末日)に向けた活動集大成のための基盤固めにも注力する。

② 部会の新陳代謝と勉強会の活用で活動の活性化を図る

過去6年間の見直しを通して浮かび上がった部会活動に関する課題解決のため、下記の施策に注力する。

・部会の新陳代謝

AITCの活動の中核は部会活動であり、企業には、継続的にテーマに沿った技術を幅広く、深く学習できる場として評価されている。一方、活動の長期化に伴い参加メンバーが固定化し、活動が停滞している状況も散見される。

この状況を打破する一環として、部会活動の終了を会員規約に明示的に規定※し、部会の設立&終了を迅速に行うことを可能とし、部会の新陳代謝を図り、活動の活性化を目指す。(※参照:第3条 会員規約改定の件)

・勉強会(会員限定)の活用

昨期、会員限定で開始した「TensorFlow勉強会」のように、これからの技術として注目されるテーマをタイムリーに取り上げ、独学に比して効率的にスキルを習得できる勉強会(短期集中で特定の技術を習得する)形式を活用することで、活動全体の活性化を図る。

本勉強会は本会会員の参加者が協同して新しい技術を学び、切磋琢磨しながら学ぶことでスキル、ノウハウを取得できる場、後続の技術者のリーダーとして活躍できる人材を育成する場と位置付ける。結果として、会員企業に対し新しい技術分野のスキル・ノウハウのスムーズなフィードバックも目指す

③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化

コンソーシアム活動に参加するメリットの一つに、企業の枠を超えた技術と人の交流が挙げられる。

設立当初より、本会では、同じテーマに関心を持つ技術者同士の交流は部会で、更に、部会間の連携活動である協働プロジェクトにおいて単一の部会にはない技術と人材の交流が図れるよう努めてきた。これに加え、2014年からは新たにAITCオープンラボが、更に2015年からはシニア技術者向け、IT女子向けの活動が加わり、IoTや機械学習など、新しい技術領域への取り組みにより会の知名度もUpし、多様な人材が参集するようになった。今期はそれぞれの活動を更に充実させることで、会員内外を問わず多様な先端IT人材間の密なネットワークを確立し、会として、会員として、個人としてのパワーアップを目指していく。

・AITCオープンラボを軸に、若手技術者の育成を行う

先端ITの活用推進を担う若手技術者に、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場を提供し、若手技術者の成長に寄与することを目指す。

・シニアプログラム(通称:シニア技術者勉強会)を軸に、シニア技術者の活躍を支援、若手技術者との交流の場を提供

長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供し、併せて、若手技術者との交流を通してシニア技術者の培ってきた知見・経験を若手技術者に伝承する場となることを目指す。

・IT女子プログラム(通称:女子会)を軸に、「人・技術・知見との出会い」でIT女子の活躍を支援する

より多くの女性に参加してもらい、先端ITのスキル、ノウハウを習得してもらうことで、更に活動の企画や運営に関与してもらうことで、後続のIT女子のリーダ役となれるIT女子の育成を目指す。

④ 情報と知見の発信を更に強化し、先端ITの普及促進で社会貢献

設立以来、先端ITへの取り組みと調査・研究の成果を広く世に公開することにより、先端ITの普及を促進し、社会に寄与することを目指してきた。特に、この2～3年の取り組みと情報発信の強化により本会の知名度は格段に向上し、注目度が高まっている。今期も有用な情報や知見を発信することで、技術者の裾野を拡大しつつ、実証実験等を通じて先端ITの活用例を提案し、更なる社会貢献を目指す。

・活動の成果をタイムリーに発信

部会に蓄積されたスキル・ノウハウや研究成果を、「AITCオープンラボ」や「成果発表会」で纏めて発信することで、技術者の裾野の拡大を図り、先端IT活用推進の足掛かりとする。

・情報の速やかな公開で、活動を更にオープン化

セミナーやオープンラボ、成果発表会等の資料を、速やかに、かつ、検索し易い形での公開を一層強化し、鮮度良くリアルタイム性の高い情報を外部発信し、先端ITの活用推進に寄与する。資料の公開には、引き続き、外部サービスも併用し、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする。

2) 活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端ITを取り上げ、新しいIT活用を拓くことを目指し活動している。部会活動を中心に、ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い技術分野をカバーするとともに、注目度の高い新しい技術領域(IoT、セキュリティ、機械学習、深層学習など)に取り組んでいる。会員はいずれの活動にも好きなだけ参加できるため、活動への関与の仕方次第で、幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会を得て、同時に多様な人との交流も可能になる。

第7期の活動対象分野



【新しい技術領域への取り組みについて】

第五期（2014年度）はIoT、第六期（2015年度）は機械学習にフォーカスした活動で注目を集め、高い評価を得た。

今期（第七期）は、引き続きIoTや機械学習・深層学習に取り組むとともに、セキュリティ、ブロックチェーンやロボットなどへの取り組みを目指す。また、これから新たに登場するテクノロジーにも注目し、挑戦していく。

なお、上記以外の新しい技術領域に関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 各種アンケート（会員アンケート、AITC技術セミナー、AITCオープンラボ等）
- ② AITC会員専用SNS「わいがや会議室」での要望入手やヒアリング

↓

- ③ 運営委員会によるセミナー企画、開催

↓

- ④ 新しい活動の立ち上げ：会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。

会員規約第40条（勉強会）

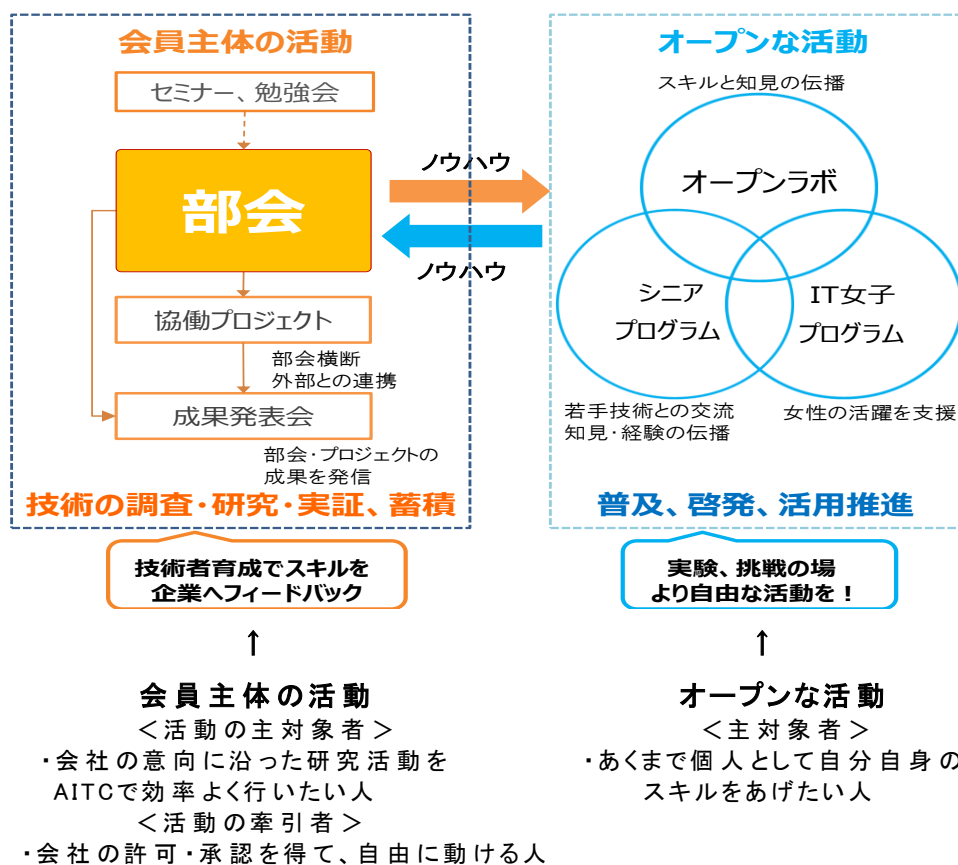
3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。

会員規約第41条（部会）

3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3)活動の種類と関係性

会員主体の活動とオープンな活動の2系列で構成し、それぞれの特質を活かしながら活動し、適宜、相互に連携することでより密度の濃い活動になることが期待される。今期における会員主体の活動とオープンな活動それぞれの構成は以下の通りとする。



【活動の概要】

会員主体の活動：

先端 IT に明るい技術者を育成し、スキル・ノウハウを会員企業へフィードバックする活動を行う場

① セミナー(部会のシーズ)

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

- ・勉強会や部会のシーズとなる先端 IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。

会員は希望するセミナーに、いつでも、いくつでも参加することができる。

② 勉強会(会員限定)

特定の先端 IT を学び、試しに試してみる場

- ・部会のシーズとなる先端 IT
- ・企業が注目している新しい技術領域

勉強会は、特定の先端 IT を短期集中(3 ヶ月～6 ヶ月程度)で学習する場。

先端 IT の動向を見ながら、また、会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく。

勉強会は目標達成をもって活動を終了するか、部会の活動にするか、勉強会後の活動形態を選べる。

会員は希望する勉強会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ 部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成

を目指す。

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間、目標、活動の成果、具体的な活動内容や方法を定める。

定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。

会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

④ 協働プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。

実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。

先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。

会員は協働プロジェクトに参加することができる。

⑤ 成果発表会等

実活動に基づく情報と知見を共有する場

- ・部会や協働プロジェクトの活動内容や成果を会員内外に発表する

上記の発表会に加えて、他団体との共催あるいは他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT の活用推進を目指す。

オープンな活動:

非会員も参加可能な先端 IT の普及・啓発、活用推進の場、部会活動で得たノウハウを伝播する場より自由に、旬の技術領域に挑戦、実践する場

① AITC オープンラボ

部会とノウハウを相互に伝播する場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・会員内外を問わず技術情報・ノウハウを発信し、先端 IT の普及・啓発に寄与
- ・技術者の裾野を広げ、活用推進への足掛かりとしての知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側はオープンラボの挑戦、実践の結果のノウハウを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。

イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。

② シニアプログラム(通称:シニア技術者勉強会)

シニア技術者と若手技術者が交流する場

- ・シニア技術者に先端 IT を学ぶ場を提供する
- ・シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承する

③ IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会)

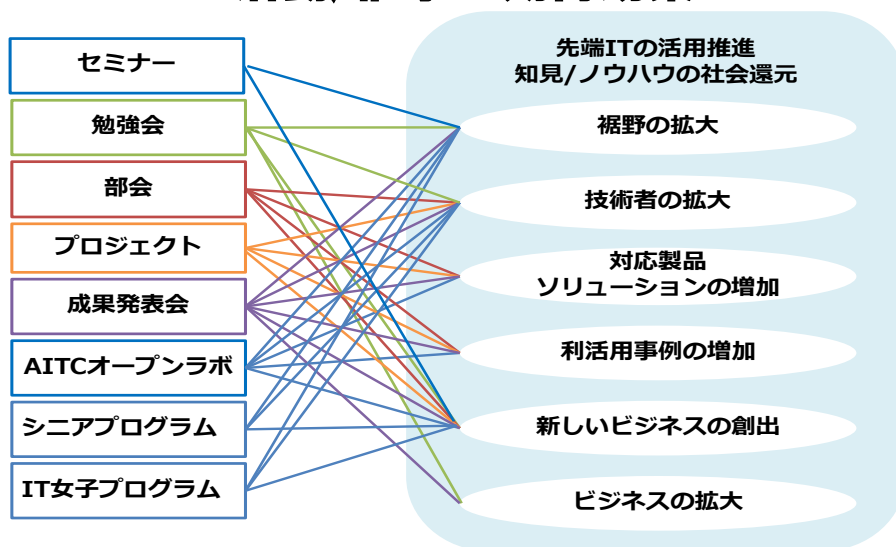
「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する場

- ・女性技術者に先端 IT を学ぶ場を提供し、活躍の場が広がることを支援する
- ・オープンな場での活動を通じて AITC を知ってもらい、AITC の活動への女性の参加と活躍を促進する

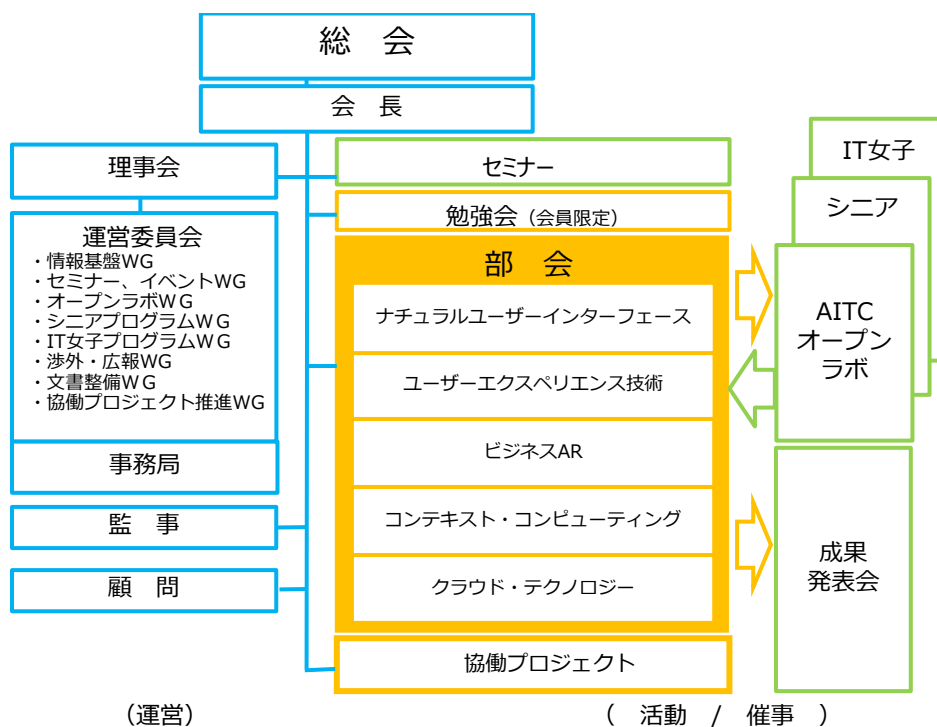
4) 活動の期待効果

先端ITの活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果を想定する。

活動/催事の期待効果



5) 体制図



6) 年間主要活動計画

(年次) 2016 年 10 月 14 日
2017 年 10 月(予定)
(月次)

理事会、第七回総会、総会記念講演、懇親会
理事会、第八回総会、総会記念講演、懇親会
運営委員会、部会リーダー会
協働プロジェクト立案・推進会議
部会(月例 F2F 部会)
勉強会(月例 F2F 勉強会)
AITC オープンラボ
シニア技術者勉強会
AITC 女子会

(随時)

合同部会

SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動

活動成果発表会

AITC技術セミナー

Webサイト更新作業

AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会

取材協力

外部主催の催事に対する出展、協力

第 5 号 議 案

第 7 期（2016 年度）予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第7期(2016 年度)予算計画

2016 年 9 月 1 日 から 2017 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第6期 予算	第6期 実績	第7期 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	6,752,213	6,752,213	6,899,375	
年会費	3,713,000	3,653,000	3,823,000	法人&個人事業主 35 会員×10 万円 個人会員 32 会員 × 1 万円 学術会員 1 会員 × 3 千円 注:総会開催時点の会員数で算出
セミナー等参加費	300,000	447,000	400,000	総会、成果発表会、技術セミナー、オープンラボ、シニア&女子会等の懇親会参加費で、各懇親会の原資として充当。夜間の開催の増加に伴い、100 名 × 2 千円、200 名 × 1 千円を想定
雑収入	1,500	780	780	受取利息等
収入の部合計	10,766,713	10,852,993	11,123,155	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	300,000	188,665	200,000	懇親会費、講師謝金、賞状作成費、備品運搬費等
活動支援費 (部会、勉強会)	1,100,000	486,022	700,000	機器機材購入/レンタル費 外部会議室費、レンタルサーバー費 輪読用書籍代、成果発表会懇親会費 参照:特記事項2
協働プロジェクト支援金	500,000	148,513	200,000	機器機材購入/レンタル費、合同部会懇親会費 等 参照:特記事項2
イベント参加費	100,000	54,000	200,000	外部イベント参加、学会への参加 等
技術セミナー、オープンラボ開催費	300,000	240,876	400,000	講師謝金 5 万円、懇親会費 等 参照:特記事項2
シニア勉強会 & 女子会活動支援金	400,000	177,648	200,000	機器購入費、外部会議室費、講師謝金 等
事務局経費	2,592,000	2,592,000	2,592,000	事務局サポート要員費(各種情報の配信&サイト掲載、会員管理&対応、セミナー等申込受け付け&運営補助、財務経理、事務作業一般、対外対応等)
コンソーシアムサイト リニューアル費	200,000	0	0	参照:特記事項3
通信費	5,000	7,786	10,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	5,000	11,148	15,000	
雑費	30,000	15,966	20,000	振り込み手数料、名刺作成費
予備費	5,234,713	30,994	6,586,155	参照:特記事項2、3
支出の部合計	10,766,713	3,953,618	11,123,155	

特記事項:

- 年会費の収入は総会開催時の会員数をベースに算出。
- 支出の部の予算額は昨年の実績を参考に計上。
但し、下記の項目に不足が生じた場合は理事会の承認を得て、予備費を充当する。
 - ・活動支援金(勉強会、部会)
 - ・協働プロジェクト支援金
 - ・技術セミナー、オープンラボ開催費
 - ・シニア技術者勉強会&女子会活動支援金
- サイトリニューアルの必要が生じた場合には、理事会の承認を得て、予備費から充当する。

第6号議案

第7期(2016年度)理事/監事選任の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第7期(2016年度) 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名50音順)

(交代)

アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション推進部 担当部長	荒本 道隆
富士ゼロックス株式会社	ソリューション・サービス開発本部 本部長 執行役員	戸井 哲也
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 人材戦略センター センター長	木原 民

(留任)

イースト株式会社	代表取締役会長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
株式会社 NTT データ	技術開発本部 本部長	風間 博之
一般社団法人情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術統括部 Web フロント技術部 部長	齋藤 重幸
株式会社日立製作所	ICT プラットフォーム事業統括本部	
	IT プロダクツ統括本部 開発基盤本部 主管技師長	吉野 松樹
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
富士通株式会社	グローバルビジネス戦略本部 SPF 開発企画戦略室	
	シニアディレクター	藤田 和彦

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社	代表取締役社長	水谷 学
------------------	---------	------

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名50音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
国立研究開発法人産業技術総合研究所 知能システム研究部門 上級主任研究員	和泉 憲明
東京大学 先端科学技術研究センター 教授	稲見 昌彦
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授	山本 修一郎
早稲田大学 情報生産システム研究センター 招聘研究員	丸山 不二夫

【ビジネス AR 研究部会顧問】

AR 三兄弟 長男	川田 十夢
デジタルハリウッド大学大学院 専任教授	三淵 啓自

【運営委員候補】(敬称略、社名50音順)

(留任)

アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション推進部 担当部長	荒本 道隆
株式会社イーグル	開発部	菅井 康之
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CEO/CPO	平野 洋一郎
株式会社 NTT データ	技術開発本部 エボリューションITセンタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	社会システムデザインユニット シニアマネージャー	大林 勇人
ドリーム IT21	代表	田原 春美
ドリーム IT21		原 孝治
日本ユニシス株式会社	全社プロジェクト推進部 決済イノベーションプロジェクト	牧野 友紀
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術統括部 Web フロント技術部	
	開発一室 室長	高島 亮祐
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	先端技術研究部	高岡 大介
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部	
	コントローラプラットフォーム第二開発部 マネジャー	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部	
	コントローラプラットフォーム第四開発部	門馬 隆
富士通株式会社	グローバルビジネス戦略本部 SPF 開発企画戦略室	
	エキスパート	小森 斉
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 人材戦略センター 人材戦略部	飯沢 篤志

付属資料

第 7 期 (2016 年度) 活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト「空気を読む家」

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

6年目は、特に IoT と機械学習を軸に、クラウド関連の各要素技術を活用するための技術習得に注力した。7年目も、引き続き部会内勉強会やハンズオンの開催を継続しつつ、前期の IoT と機械学習に加え、必ず必要になるセキュリティや、外部出力装置など、さらに幅広いクラウド関連の各要素技術の活用に挑戦する。

- ・測定(センシングなど)： Arduino を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク)： 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名, セキュリティ
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用)： RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理、オープンデータの利用、アルゴリズム)： R, 遺伝的アルゴリズム, ディープラーニング
- ・出力(ビジュアライゼーション、外部装置)： R, D3.js, ロボットアーム

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。また、それらを使ったプロトシステムを開発し、検証を行う。

セキュリティに関しては、他団体と連携して、実際に動作するプロトタイプを作ってみて評価する。

外部出力装置に関しては、クラウド部会ではこれまで、入力としてのセンサー、頭脳としての機械学習をやってきており、出力に関しては可視化を行ってきた。さらに、フィジカル領域へ働きかける出力装置としてのアームやモーターを使うことで、より多彩なデータの収集が可能になる。また、「入力・頭脳・出力」と、いわゆるロボットを構成する要素すべてを学べたことになる。

より重要なデータ、より意味のあるデータを大量に収集するためにも、「セキュリティ」と「入力・頭脳・出力」を今期は重点的に取り組む。

■活動計画

- ・クラウド関連の情報収集
- ・部会内勉強会＆ハンズオンの開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・書籍の輪読(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会＆ハンズオン資料
- ・オープンラボへの展開
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換

■体制(敬称略)

- リーダー： 荒本 道隆 (アドソル日進株式会社)
- サブリーダー： 上村 準也 (キヤノンソフトウェア株式会社)
- 菅井 康之 (株式会社イーグル)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータで研究を行う。

この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンス(Social Intelligence)が階層的に連動する情報基盤を提言する。

■活動内容

- ・コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械(コンピュータ)の協働による“情報の個人化”、“社会知の形成”」の検討
- ・2020年のITシステムにおけるSocialIntelligenceの姿と実現方法の構想
- ・コンテキスト・コンピューティングを実現するための基盤となるプラットフォームの作成
- ・コンテキスト・コンピューティングの社会・ビジネスにおける応用例の提案
- ・コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査、計算アルゴリズムの検証
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素の調査・試用(モバイル・ウェブアプリ等)

■活動計画

- これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、理論と実践、応用の三つの面からの研究を平行して進める。その中で、今期はコンテキスト・コンピューティングの応用事例開発を通じて、協働プロジェクト「空気を読む家」の実現と理論的裏づけの強化に貢献する。
- ・理論)機械が情報を集約するにあたって有用と考えられるアルゴリズムや手法、関連研究に関する輪読・輪講
 - ・実践)理論で学んだアルゴリズムや手法、研究を活用するための技術・実装の試用
 - ・応用)「空気を読む家」におけるコンテキスト・コンピューティングの活用シナリオの検討と、「空間OS」を使ったコンセプトモデルの開発

■活動成果

- ・「人と機械の協働による社会知形成」実現に向けたコンテキスト・コンピューティング研究状況(成果と課題の整理、関連研究や活動との比較)報告書
- ・近未来の情報社会における情報基盤としての社会知の活用に関する提言書
- ・講演等各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNSを使ったオンラインでのディスカッション
- ・顧問、有識者との意見交換

■体制

(敬称略)

- リーダー : 道村 唯夫 (富士ゼロックス株式会社)
リーダー補佐: 牧野 友紀 (日本ユニシス株式会社)
サブリーダー: 小林 茂 (個人会員)
高岡 大介 (ピースミール・テクノロジー株式会社)
陣内 康行(住友セメントシステム開発株式会社)
顧問 : 和泉 憲明 (産業技術総合研究所)

ビジネスAR(BizAR)研究部会

■背景

この数年来、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末・VRやセンサーネットワーク(IoT)、生活支援ロボット(AI)への期待の高まりが生じている。このような潮流をテクノロジーの観点で俯瞰すると、人間の感覚(視覚だけでなく聴覚や触覚など)の拡張やITと人間が一体となった(総連携)技術(=我々が考えるAR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域である“Others”(シェアリングエコノミー、ローカル経済、里山資本主義(広域自給自足)、プロボノ等)が勃興しつつあり、

世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえたARの活用(ビジネスAR)について研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1)ビジネス AR を創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR 技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

前述の活動目的を達成し、かつ協働プロジェクト「空気を読む家」の実現に貢献するため、2016 年度は下記の活動を行う。

- 1)空間 OS の開発継続
- 2)ダイナミック・プロジェクションマッピング※の技術研究と実装
- 3)1 及び 2 のユースケースや社会実装(普及展開)の研究
- 4)2016-2017 ここ 1 年の AR 関連情報のアップデート
- 5)成果物の整備と公開(「AR 百連発 2015」「AR 産業論 2015」)
- 6)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など

※いわゆる IoT(動画撮影&データ送信)、AI(画像解析、オブジェクト認識)を用いて動的な対象物に対して投影する技術。(http://www.k2.t.u-tokyo.ac.jp/mvf/LumipenRetroReflection/...)

■活動成果

- 1)技術トライアル成果物の公開
- 2)AR 産業論
- 3)AR 百連発(講演用スライド)

■活動方法

- 1)月例会の開催
- 2)SNS 等を利用した意見交換や技術情報の交換、トライアル開発
- 3)顧問、外部団体・有識者との意見交換

■体制(敬称略)

リーダー : 大林 勇人 (株式会社 NTT データ経営研究所)
サブリーダー: 中川 雅三 (日本総合システム株式会社)
西野 貴志 (ナレジックス株式会社)
部会顧問 : 三淵 啓自 (デジタルハリウッド大学大学院 専任教授)
川田 十夢 (AR 三兄弟 長男)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

IT システムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。しかし、優れた UX を提供する IT の実現には、先進的な UI 技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。このような状況の中、UX デザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体の UX だけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UX デザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供する IT システムとは何かを探究する。

UX デザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、IT の UX 向上に貢献していく。

■活動内容

UX デザイン/サービスデザインプロセスで活用できるツールや手法の研究と実践を行う。
並行して、UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究、近未来 UX の検討を行う。
更に、これらを踏まえ、AITEC 発の UX アーキテクトプロセスである「マンガ駆動開発」のデザインを進める。

■活動計画

- ・2016 年 9 月～2017 年 8 月：
サービスデザインの研究/実践
外部セミナーやワークショップの受講と部会での実践
協働プロジェクトを対象にしたサービスデザインプロセスの実践

■活動成果

- ・「空気を読む家」の UX デザイン
- ・「マンガ駆動開発」

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

- リーダー：原 孝治（ドリーム IT21）
- 補佐：松山 憲和（PFU テクノコンサル株式会社）

ナチュラルーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景／活動目的

前年度に引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

協働プロジェクト「空気を読む家」のなかで、日常的な人間の振る舞いが自然なインターフェースとしてシステムと繋がるようなフレームワークを検討、開発する。

■活動計画

- 随時
- NUI 技術及び事例の調査
- 勉強会、ハンズオンの開催
- NUI フレームワークの開発
- デバイス、ガジェット紹介イベントの開催

■活動成果

- ・NUI 利用技術の習得
- ・NUI フレームワークの公開

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

- ・リーダー：岡村 和英（株式会社テクリエ）
- ・サブリーダー：未定（必要に応じて選任）

協働プロジェクト「空気を読む家」

■目的

協働プロジェクトは、技術的なテーマを持って活動を展開している部会と連携し、以下を目的として活動を行う。

- 1) 一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2) 会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3) 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■テーマ

超少子高齢化社会における安心・安全・快適な生活の実現という社会課題解決にチャレンジする「空気を読む家」をテーマとして協働プロジェクトの活動を行う。

「空気を読む家」は以下をコンセプトとする。

- ・「空気を読む家」は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

■活動内容

各部会の活動成果を結集し、「空気を読む家」を実現する。

・各部会の活動成果

- － ユーザーエクスペリエンス技術部会が提唱する「マンガ駆動開発」によるユーザー体験のデザイン
- － ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み
- － クラウド・テクノロジー活用部会が取り組んでいる、IoT や深層学習などの先端 IT をもっと身近に体感
- － ナチュラルユーザーインターフェース活用部会が研究している、真に自然なユーザーインターフェースの追求
- － コンテキスト・コンピューティング研究部会で研究を進めている集合知、社会知の活用

協働プロジェクト全体の方向性や部会ごとの役割分担や部会間の連携については合同部会と部会リーダー会において決定する。

各部会は、決定された方向性、役割に従って「空気を読む家」の具体化を進める。

「空気を読む家」1軒を部屋毎に建てていくイメージ(実際の「家」ではなくプロトタイプ)

- － 家の各部屋(玄関、リビング、キッチン、寝室、浴室・・・)について、「マンガ駆動開発」により、課題抽出からユーザー体験をデザイン。
- － ユーザー体験を実現する実証実験システムを、IoT、深層学習、自然なユーザーインターフェースを活用して構築
- － 「空気を読む家」の大黒柱ともいえる「空間 OS」の拡充

■活動計画

2016 年度は『空気を読む』の意味/意義を追求し、その実現方法を実証実験をとおして検証する。

具体的には、「寝室」における快適な睡眠をサブテーマとして

- － 室温や気圧など様々な生活環境情報と人の活動状況を収集し、睡眠状況との関連性を探る
- － 快適な睡眠に導く生活環境の変更や人の行動を示唆する仕組みを構築する

同様の手法/アルゴリズムが、睡眠とは異なる課題や利用シーンにおいても適用可能かを検証する。

■活動方法

以下の取り組みで活動を行う

- ・部会リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- ・各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- ・部会間の意見交換会
- ・発表
- ・構築後のプロトタイプ公開等
- ・プレスリリース

■活動成果

協働プロジェクトの実施によって見込まれる活動成果

- ・実証実験システム: システム、各種仕様書、ソースコード、モジュールなど
- ・活動報告書

■体制（敬称略）

- リーダー : 松山 憲和 (PFU テクノコンサル株式会社)
 - サブリーダー: 原 孝治 (ドリーム IT21)
 - 推進役 : 部会リーダー、サブリーダー、運営委員有志
 - メンバー : 会員有志（状況に応じ、他団体との連携により非会員が参加）
-